ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

（2025年8月18日（月）～24日（日））

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　岸和田聖書教会

牧師　栗原純人

　「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」（ヨハネ6：48）。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに目を向け、みことばによって主を食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は　義のうちに御顔を仰ぎ見　目覚めるとき　御姿に満ち足りるでしょう。」（詩篇17：15）。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。

『みことばの光』は一冊（一ヶ月）430円（注文は栗原弥希姉まで）。

1. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
2. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしながら、おやすみなさい。

今週も列王記第二を読み進めます。

8月18日（月）

今日の聖書日課：Ⅱ列王記14：17～29

イスラエルの苦しみが非常に激しいのを、主がご覧になったからである。そこには、奴隷も自由な者もいなくなり、イスラエルを助ける者もいなかった。

Ⅱ列王記14：26

　北イスラエルの王ヤロブアム。ネバテの子ヤロブアムではありません。なのでこの人は「ヤロブアム二世」と呼ばれたりします。こんな風に命名されるところからもわかります。彼は「主の目に悪であることを行い」ました（24）。けれど、このヤロブアム二世は「レボ・ハマテからアラバの海までイスラエルの領土を回復」しました（25）。その理由が冒頭の聖句。イスラエルの苦しみを主がご覧になったから。助ける者もいなかった。また「主はイスラエルの名を天の下から消し去ろうとは言っておられなかった」から（27）。

　一方的な主のあわれみ。これが主の救いなのです。主はあなたのこともご覧になっておられます。

8月19日（火）

今日の聖書日課：Ⅱ列王記15：1～22

彼は主の目に悪であることを行い、一生の間、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。

Ⅱ列王記15：18

　北イスラエルはヤロブアム二世の後、その子ゼカリヤが王となりますが、ヤベシュの子シャルムが謀反を企てゼカリヤを打ち殺し、王となります。しかしそのシャルムもまたガティの子メナヘムの謀反によって殺されます。そのメナヘムについて記されているのが冒頭の聖句。裏切りに継ぐ裏切り。しかしネバテの子ヤロブアムの罪（金の子牛礼拝）はどこまでも続いたのです。

　どうすれば、そこから抜け出すことができるのでしょうか？引き続きみことばに聞きましょう。

8月20日（水）　本日は祈祷会の日。ともに集まり、祈りを集めましょう。

今日の聖書日課：Ⅱ列王記15：23～38

そのころ、主はアラムの王レツィンとレマルヤの子ペカを、ユダに対して送り始められた。

Ⅱ列王記15：37

　北イスラエルの王権は、メナヘムからその子ペカフヤに、しかしペカフヤに対してその家来ペカが謀反を起こし、王となります。けれどそのペカもまた、エラの子ホセアによる謀反によって殺されました。

　冒頭の聖句。主語は主です。主は南ユダに対してアラムの王レツィンと北イスラエルの王ペカを送られました。ユダを懲らしめるためです。決してアラムと北イスラエルが主の目にかなっていたからではありません。私たちはみことばに注目して、主のなさることをしっかり見なければならなりません。

8月21日（木）

今日の聖書日課：Ⅱ列王記16：1～19

アハズは使者たちをアッシリアの王ティグラト・ピレセルに遣わして言った。「私はあなたのしもべであり、あなたの子です。どうか上って来て、私を攻めているアラムの王とイスラエルの王の手から救ってください。」

Ⅱ列王記16：7

　主が送られたアラムの王レツィンと北イスラエルの王ペカ。これを南ユダ王アハズは、非常に人間的な方法で乗り越えようとしました。すなわち、アッシリアの王ティグラト・ピレセルの力を借りて退けようとしたのです。アハズはさらにアッシリアの祭壇を主の宮に持ち込んでその神に伺いを立てました。

　うまくいっていることが大切なのではありません。だれに拠り頼むのか？それが大切なのです。

8月22日（金）

今日の聖書日課：Ⅱ列王記17：1～23

しかし、彼らはこれを聞き入れず、彼らの神、主を信じなかった彼らの先祖たちのように、うなじを固くした。

Ⅱ列王記17：14

　ついに北イスラエルが滅亡しました。アッシリアの王が、首都サマリアに攻め上り、また捕囚を始めました。聖書は、こうなったのはなぜかを語ります。イスラエルの民がエジプトから自分たちを救ってくださった主に対して罪を犯し、他の神々を恐れ、異邦の民の風習に従って歩んだからです。そんな民に主は預言者を通して何度も警告されました。しかし冒頭の聖句。

　ここまで主が忍耐され続けたことを想います。私もまた主のことばを聞き入れないうなじの固さがあるでしょうか？

8月23日（土）

今日の聖書日課：Ⅱ列王記17：24～41

大きな力と、伸ばされた腕をもって、あなたがたをエジプトの地から連れ上った主だけを恐れ、主を礼拝し、主にいけにえを献げなければならない。

Ⅱ列王記17：36

　「主だけを恐れ」。これができなかった北イスラエル、主の民でした。

8月24日（日）　礼拝説教箇所：創世記12：1～4「あなたにも神の祝福を」。和歌山聖書教会の辻喜男師がみことばを語ってくださいます。期待しましょう！